

平成 28 年度第 1 回キャリアパス支援講演会 開催報告書

「患者にやさしい医療を目指して～基礎研究・実臨床・女性研究者～」

- 【講師】 1. 田口真穂氏（横浜薬科大学 講師）
2. 望月眞弓氏（慶應義塾大学薬学部教授 大学病院薬剤部長）
- 【日時】平成 29 年 2 月 18 日（土）
- 【場所】岐阜薬科大学本部 第一講義室
- 【参加者数】64 人（うち女性研究者 9 人）

このキャリアパス支援講演会は、第 8 回育薬・創薬研究センター教育フォーラムに組み込んで開催した。まずこのフォーラムとして学生発表が 3 件あり、キャリアパス支援のためのロールモデル講演会として大学の女性教員による発表が 3 件あった。最後に、慶應義塾大学薬学部教授であり大学病院薬剤部長である望月眞弓先生に特別講演としてご講演いただいた。

1. 田口真穂先生 「Mohs ペーストの医療ニーズを通じた薬剤研究から臨床応用への検討」

現在は岐阜薬科大学病院薬学研究室（寺町教授）との共同研究を行っており、その研究成果の報告のあと、二児の母で研究者でもある自身をロールモデルとして、ワークライフバランスについて紹介していただいた。基礎研究者であるため、妊娠判明後は心身に負担がない実験系に変更してきた。また、研究職として働き続けるために、産休・育休の取得やフレックス制度の利用など勤務体系を変更し、家庭内の環境を整えていったと話された。家族や周囲、職場の理解と協力が必要であったと述べられた。



2. 望月眞弓先生「地域医療における女性薬剤師・研究者の活躍～エビデンスづくりへの貢献～」

講師と直接交流のある 4 名の女性薬剤師・研究者のキャリアを紹介していただいた。①仕事としてとりくんでいること（専門分野）、②研究テーマとその成果の紹介、③仕事および人生における信条や夢、目標、④使命に感じていること、を含めキャリア全体の紹介と、⑤それぞれの生き方から学べること、学ぶべきことをお話しいただいた。

(1) 基礎研究者の場合：仕事を完璧に覚えるため、若い時分（子育て期）に給料の 3 倍働くと決めて仕事に向きあった。頼れるものは全て頼ってきた。留学でその後の研究者人生に影響するほとんどを学んだ。重病を克服、療養の経験から、医療の課題を見つけ研究へとつなげた。③夢は「全人類が健康天寿を幸せに全うできる世界の実現」。

(2) 起業家の場合：薬剤師の資格を持ち、製薬企業での勤務経験をもとにライフサイエン

ス領域のコンサルタント会社を設立。③目標は「薬局機能を高め地域の保健医療を支える社会資源としてのエビデンスを構築し、健康寿命延伸に貢献すること。」

(3) 大学病院薬剤部長の場合：基礎研究者から学位取得、留学を経て、大学病院薬剤部に勤務。臨床研究者となり大学教員と病院薬剤師として、業務と研究をこなしている。③目標は「自分と関わった人が全て良き納税者になること」

(4) 薬局経営者の場合：薬剤師として勤務、専業主婦として子育て期を経て、薬局を開業。薬局経営の傍ら、地区薬剤師会会長などの要職を務め、現在は博士号取得に向けて大学院に在籍。③目標は「『住み慣れた地域で最期まで健康に楽しく暮らす』を応援する薬局・薬剤師。」



最後に、講師自身のキャリアを紹介くださった。

(5) 望月先生の場合：薬学部を卒業後、研究所学術部に勤務。病院薬剤師に転職し、自らの希望で研究も行うことにした。上司の理解もあり博士号を取得し、大学教員へ転向。重病を罹患したが克服、大学教員と兼任で再度臨床現場に戻る。③目標は「患者さんから信頼される薬剤師」

5名の女性から学ぶべきキーワードは「行動力、健康、気持ちの切り替え、コミュニケーション、出会い、笑顔、社会貢献、患者、等々」である。

キャリアパス支援講演会と銘打ってはいたが、研究者、薬剤師、学生など職種を問わず、また年齢や経験など問わず、聴講者すべてにとって自身に置き換えながら、また自身を振り返りながら聞くことができる非常に参考になる講演であった。

学生や若手研究者にとっては今後の進路を考える一助となったと思われる。また、ベテランにとっては今の自分を振り返り、今後どのように社会貢献をしていけるかを考えるよい機会となったと思われる。